

神出病院事件

神出病院事件とは、神戸市西
区の精神科病院で発生した長期
かつ大規模な入院患者虐待事件
である。

2019年12月に院外で起こ
した事件で逮捕された看護助手
のスマートフォンから、院内で
撮影された30件あまりの動画が
発見されたことから事件が発覚
した。20年3月、LINEグル
ープで動画を共有していた看護
師ら6人が逮捕され、同年10月
にかけて、全員の有罪判決が確
定した。

被告人らの供述によれば、集
中の虐待を受けていた患者の
1人であるAさんは「就寝時間
に徘徊するやっかいな患者」で
あった。日頃、看護師らに「ぶ
つ殺してやる」と言っていたA
さんに対して看護師らは、落下
防止の柵付きベッドを逆さにし
て閉じ込め、ボール紙で作った
剣を与えて「殺してみろよ」と
嘲った。

Aさんは「助けてくれ」「ここ
から出してくれ」と叫び、他の
患者に助け出された。監禁だけ

3年、法人が初の謝罪表明

兵庫県精神医療人権センター 高橋亮也さんが解説

たかはし りょうや・1964年長野県生まれ。医療事務員を経て、20
17年より精神保健福祉士。22年、兵庫県精神医療人権センター代表就
任。(写真/本人提供)

「患者同士にキスをさせる」「性器に塗ったジャムを別の男性患者に舐めさせる」「ベッドを逆さにして患者を閉じ込める」等の職員による虐待や暴行の実態が明らかになって3年。この8月に初めて、法人としての謝罪表明があったが……。

でなく性的虐待にもさらされた
Aさんは、事件発覚から間もな
い20年4月に亡くなった。死因
は今も明らかにされていない。
「なぜ、虐待したのか？」との
検事の質問に対して、ある看護
師はこう答えた。
「なにかしら患者にやられたタ
イミングで」

被告人らは「自分たちが(虐
待現場である)B棟4階に着任
した時にはすでに先輩らによる
虐待がまん延していた」とも語

ったが、裁判の報道は低調であ
り、第三者委員会の報告書が公
表されるまで「一部の不届き者
が猟奇的な犯罪に手を染めた」
というフレームから外れる報道
は稀であった。

18億円余の返還提言

事件の全容は、発覚から約2
年後の22年5月に公表された
「神出病院における虐待事件等
に関する第三者委員会」による
調査報告書(神出病院公式サイト [http://
www.hyogo-kishukai.jp/kando/](http://www.hyogo-kishukai.jp/kando/)参照)
によって明らかにされた。

報告書は、84件の虐待行為、
看護師ら27人の関与を認定する
とともに、ガムテープによる違
法隔離、簡易拘束と称する違法
拘束が常習化されていた事実を
明らかにした。
「常に満床にしておけ」という



前理事長からの指示は、転退院の抑制による退院者数中4割にのぼる死亡退院を生み出すとともに、毎年2億5000万円にのぼる役員報酬を彼にもたらした。前理事長による営利至上主義こそが、カビだらけの病棟、診察しない医師、疲弊しきった看護師、そして虐待の根源であった。

第三者委員会は、前理事長に対する役員報酬について、医療法の禁じる剰余金の配当に該当し、評議員会の決議を経ているという点でも違法である指摘。飯本雅巳前理事長に対し18億円余りの返還を提言した。

謝罪表明は今年8月

今年8月31日、神戸市精神保健福祉専門分科会が開かれ、神出病院を経営する医療法人聖和錦秀会(事件当時を含む今年4月までは医療法人財団兵庫錦秀会)の種子田護理事長、同法人本部川口博久部長(メインバンクみずほ銀行から神出病院再建担当として出向)、錦秀会グループ総本部・西本稔管理局長らが出席。事件発覚から3年以上が経過して初めて法人として

発覚から



謝罪を表明した。

また、飯本雅巳前理事長の責任および不当利得の返還について、西本管理局長は「有識者、顧問弁護士を交えて協議していきたい」と述べ、川口部長は「額までは言えないが返還を求め」とし、公の席での謝罪についても「メインバンクからも『理事長を排除しろ』と言われてる。どこでやるのが適切か、次回の分科会では何らかの回答をしたい」と述べた。

ただし、昨年12月には、飯本雅巳氏の長男・武志氏がグループの中心である錦秀会の理事長に着任したばかり。「前理事長の排除」とは言っても、飯本一族によるオーナー経営が変わる兆しはない。

同分科会での報告によれば、神出病院の死亡退院率(退院者

死亡退院率は神戸市内14精神科病院中トップ

中の死亡者の割合)は、事件が発覚した20年度・42%(89人)、21年度・27%(49人)、22年度・33%(69人)、23年(4月から7月末)・18.5%であった。

他の年度については明らかにされていないが、22年度の神出病院の死亡退院率は神戸市内14精神科病院中トップであった。

21年末から翌年4月にかけて、神戸市が兵庫県精神保健福祉士協会の協力を得て行なった神出病院入院患者意向調査では、面談した241人中111人が退院を希望した。

そのうち、今年8月1日までに退院した人は33人。内訳は施設転所12人(救護施設、グループホーム、高齢者施設)、転院7人、死亡14人。ただし、退院後8人が再入院した。

分科会では、土居正典院長か

8月31日に神戸市内で開かれた同市精神保健福祉専門分科会。神出病院を経営する聖和錦秀会の種子田護理事長(写真中央、マイクを持つ人物)が出席。法人として初めて事件について謝罪した。(撮影/高橋亮也)

ら、被害者に対する謝罪・賠償の進捗が明らかにされた。

対象とされている被害者(家族)は9人。うち、「連絡しないでくれ」「話すことは何もない」等、話し合いを拒否している家族が4人。「これからまた考えて連絡する」など態度を保留している方が1人。「後見人に説明した」「病院に来てもらい、話している」「弁護士を入れて話をしている」等、話し合いを継続している方が3人、後見人とこれから話し合う予定の方が1人であった。

誰も面倒見てくれない

喫緊の課題のひとつである退院希望者の退院が進まない理由はなんだろうか。

上記分科会での神戸市の資料では「長期入院になっているケースでは、家族関係等の症状以外の課題、退院先の確保や生活面のサポートの確保の難しさなど、課題が重複しており対応が非常に難しい」「自宅退院を希望するも家族の意向と合わなかったり、福祉施設や介護施設等への退院調整も精神症状と合わ



事件発覚から数カ月後の神出病院。今年4月に経営法人が移行したため、現在は表札プレートなど外観が変わっている。2020年12月。(撮影/吉田明彦)

せて身体疾患を合併している方も多く、調整に時間を要する状態である」と報告されている。

もともと神出病院の入院患者のうち、51%が75歳以上であり、41%がアルツハイマー型または血管性認知症であった(18年精神保健福祉資料より)。神出病院には、治療上の必要性によってではなく、高齢者を中心に、地域生活を営む上でさまざまな困難を抱える人々が集められてきたと言える。

問題の背景のひとつとして、02年に導入されたスーパー救急病棟(精神科救急入院科病棟)による精神科病院の二極化につ

いて指摘しておきたい。

スーパー救急病棟とは、手厚い職員配置や新規の入院患者の6割以上が3カ月以内に退院することなどを条件に最高額の診療報酬を算定できる制度であるが、導入した一部の病院では、3カ月を超えて退院させることのできない患者を他院に転院させる傾向が強まった。

ベッドを逆さにして監禁されたAさんも、スーパー救急病棟導入に向けて長期入院患者を減らした病院から転院してきた患者であった。

神出病院で母親を亡くしたある家族は言う。

「病院や施設をたらい回しにされたあげく行き着いた先が神出病院だった。他の誰も面倒を見てくれなかったではないか」

国策で收容された人々

18年8月20日の『毎日新聞』(Web版)によれば、精神科病院では、50年以上入院する患者だけで1773人。神戸市を除く兵庫県下の精神科病院に限ってみれば、10年以上の入院患者は887人、20年以上は644人にのぼる(21年度精神保健

治療上の必要性ではなく、社会の敵として收容された

福祉資料より)。

同年度に精神医療審査会(注)に申し立てられた退院請求は54件。うち、県が退院命令を発したのは1件のみだ。これらの人々は裁判で判決を受けたわけでも、刑期があるわけでもない。

彼らの人身を拘束する精神保健指定医には、一民間人にもかかわらず、検察官や裁判官を凌駕する権限が与えられている。

一般の読者は、こうした問題の背後に精神疾患の治療に特有のやむをえない事情があるのではないかと考えるかもしれないが、そうではない。

精神障害者に対する処遇は、戦前の私宅監置から戦後の精神科病院への收容へと転換したが、国の認識は、「精神障害者のために社会は、年々1000億円を下らない額の生産を阻害さ

れている」というものだった(1

951年・厚生省公衆衛生局「わが国精神衛生の現状並びに問題について」)。

また、国の低利融資により乱立した民間精神科病院経営者による日本精神科病院協会の設立趣意書(1949年)では、自らを「常に平和と文化との妨害者である精神障害者に対する文化的施設」であると豪語した。精神障害者は、治療上の必要性によってではなく、国策により、社会の敵として收容されてきたのである。

父権社会の向こう側へ

2022年、国連・障害者権利委員会は、障害者権利条約に関する初の対日審査を実施。その総括所見において精神障害者の非自発的入院の見直し等を厳

神出病院事件

「精神科に入院中のあなたへ」として電話相談窓口を紹介する兵庫県精神医療人権センター(078-612-0876 木曜13時~16時、<https://rpphyogo.org>)のパンフレット。面会相談も行なっている。

権利

078-612-0876
078-611-3886
078-362-0074

rpphyogo.org

しく勧告したが、冒頭で強く指摘された問題は日本社会に根強いパターンナリズム（父権主義）であった。

日本精神科病院協会の山崎学^{まなぶ}会長は、「精神科病院に入院し続けることは幸せなのか」との問いに対し、「そう思うよ、ほ

くは。地域で、アパートで一人暮らししながら、明日のことも分らず生活するのと、病院の4人部屋で皆でご飯食べるのと、どっちがいいかって言ったら、ぼくは病院を選択するよ」と答えている（7月7日付『東京新聞』）。

そこでは、精神障害者は、思考し、判断し、権利を行使する人間として見做^{みな}されない。精神障害のある当事者が、権利を行使する主体として復権するためには、地域で生活する上での困難を地域で解決していくことが必要だ。パターンナリズム

の向こう側へ、神出病院事件の現場から一步を踏み出していくために、多くの関係者、そして市民の力の結集を願いたい。

（注）1987年の精神保健法成立時に非自発的入院や院内の処遇が適正であるかを審査するために設けられた機関。

「弊害」指摘されても 今度は3代目が理事長に就任

錦秀会グループとは、神出病院の前理事長、藪本雅巳氏の父、秀雄氏が創業した西日本最大と称される医療法人グループである。

秀雄氏は、行き倒れの方々を積極的に受け入れる病院経営を行ない、グループを成長させたが、1982年に横領・背任等で懲役2年の判決を受け、理事長を辞任した。

判決で「オーナー一族経営の弊害」を指摘されたため、理事長職は弁護士が務めていたが、ほとぼりが冷めた95年、息子の雅巳氏が理事長に就任した。雅

巳氏は、「これからは認知症の時代である」として経営方針を転換させた。

98年に神出病院、2008年に大阪の阪本病院、09年に同・新いずみ病院（現・阪和いずみ病院）の各精神科病院を吸収合併し、認知症患者の受け入れを進めてきた。15年に政府が新オレンジプランで「認知症に対する精神科病院の活用」を打ち出すよりも前のことである。

「収益増大のため働く」
かつて阪本病院の勤務医であ

った胡桃澤伸氏は、錦秀会に吸収された当時は振り返り、次のように述べている。

「院長の退職が決まった直後、神出病院の医師が医局に来たときに心底からの恐怖を感じた。旧日本軍の軍人がやってきたと思った。口から出たのは『藪本理事長は素晴らしい方です』という言葉だった」「ケースワーカーは患者のためにではなく経営者の言う通りに動く人になってしまい、ベッドを埋め、回転させ、収益の増大に貢献するために働いていた」（統合失調症

のひるば）20年秋号「神出病院事件で考えたこと」。

21年9月、日本大学背任事件の容疑者として逮捕された藪本雅巳氏は、錦秀会の理事長を辞任。22年12月、長男の藪本武志氏が新理事長に就任。23年4月、神出病院を経営する兵庫錦秀会は大阪の二つの精神科病院等を経営する聖和錦秀会に吸収合併された。（高橋亮也）

（注）日本大学板橋病院の建て替え工事で、選定した設計事務所から藪本雅巳被告のペーパー会社に2億2000万円の日大資金を不正送金したとして、日大元理事・井ノ口忠男被告とともに背任罪で起訴。さらに医療機器などの納入取引で藪本被告側の会社を介在、約2億円を上乗せしたリース契約を日大に結ばせたとして追起訴された。